

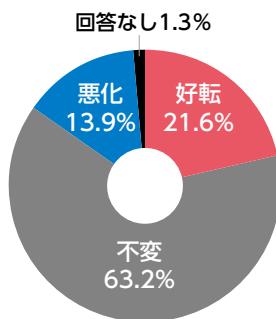
世田谷区における中小企業の景況

業況

今期(2024年10~12月期実績)の業況DIは、+7.7ポイントで前期から+7.3ポイント改善した。

来期の業況見通しDIは+12.1ポイントとなり、前回調査より+0.9ポイント好転する見通し。

今期の業況(前期との比較)

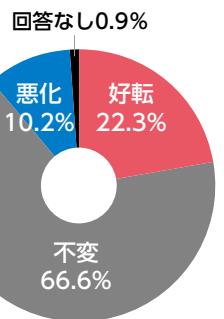


今期業況DI

II
7.7

DI 7.7=
好転21.6% - 悪化13.9%
※前回調査(0.4)から
7.3ポイント改善

来期の見通し(今期との比較)



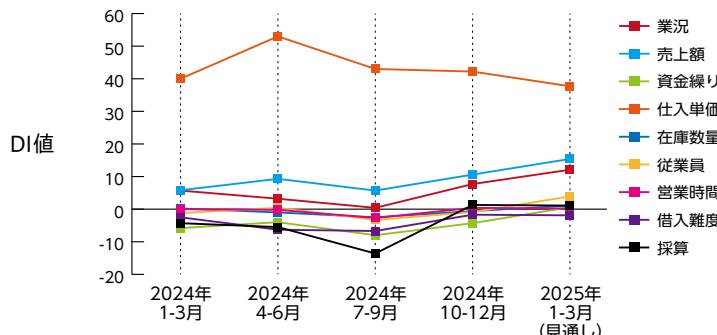
来期見通しDI

II
12.1

DI 12.1=
好転22.3% - 悪化10.2%
※前回調査(11.2)から
0.9ポイント改善

主な指標別の傾向

今期は、仕入単価+42.2(前期比▲0.8)のみポイントが減少し、それ以外の指標はポイントが増加した。最も増加したのは、採算+1.3(同+14.9)で、約15ポイントと大幅に増加した。次いで、業況+7.7(前期比+7.3)、借入難度▲1.7(前期比+5.0)、売上額+10.6(同+4.9)等は4ポイント以上増加している。来期見通しでは、資金繰り+0.6(同+4.9)、売上額+15.4(同+4.8)など5指標でポイントが増加し改善が見込まれる。



指標	5.7	3.2	0.4	7.7	12.1
売上額	5.8	9.3	5.7	10.6	15.4
資金繰り	▲5.8	▲4.0	▲8.0	▲4.3	0.6
仕入単価	40.0	53.0	43.0	42.2	37.7
在庫数量	0.2	▲1.0	▲2.5	▲0.6	1.1
従業員	▲1.2	0.4	▲3.3	▲0.9	3.9
営業時間	0.0	▲0.2	▲2.7	0.4	0.2
借入難度	▲2.5	▲6.3	▲6.7	▲1.7	▲1.9
採算	▲4.3	▲5.5	▲13.6	1.3	1.1

主要景況指数表[今期の状況(前期比)]

(注)調査項目：業況(好転↔悪化)、売上額(増加↔減少)、資金繰り(好転↔悪化)、仕入単価(上昇↔低下)、在庫数量(増加↔減少)、従業員(増加↔減少)、営業時間(延長↔短縮)、借入難度(容易↔困難)、採算(好転↔悪化)

	業況	前年同期比	売上額	前年同期比	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全 体	7.7	10.4	10.6	18.4	▲4.3	42.2	▲0.6	▲0.9	0.4	▲1.7	1.3
製 造 業	6.4	6.4	17.0	14.9	▲6.4	44.7	4.3	2.1	▲2.1	0.0	4.3
建 設 業	10.2	19.3	18.2	28.4	1.1	46.6	▲6.8	2.3	2.3	5.7	4.5
不 動 産 業	7.4	16.7	7.4	14.8	3.7	29.6	▲1.9	▲3.7	1.9	3.7	3.7
卸 売 業	6.7	▲2.2	2.2	11.1	▲6.7	46.7	▲4.4	▲4.4	▲4.4	▲2.2	▲2.2
小 売 業	▲4.2	8.4	11.6	24.2	▲3.2	63.2	5.3	▲3.2	▲4.2	▲6.3	▲4.2
サ ー ビ ス 業	15.8	9.0	6.8	12.8	▲10.5	27.1	▲0.8	0.0	4.5	▲6.0	2.3

主要景況指数表[来期の見通し(当期比)]

	業況	売上額	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全 体	12.1	15.4	0.6	37.7	1.1	3.9	0.2	▲1.9	1.1
製 造 業	10.6	10.6	▲6.4	63.8	6.4	6.4	0.0	▲4.3	4.3
建 設 業	22.7	31.8	10.2	33.0	0.0	11.4	1.1	3.4	6.8
不 動 産 業	13.0	18.5	3.7	27.8	▲7.4	0.0	0.0	0.0	11.1
卸 売 業	6.7	6.7	0.0	42.2	2.2	▲4.4	▲2.2	0.0	▲4.4
小 売 業	2.1	5.3	▲4.2	51.6	6.3	2.1	▲1.1	▲2.1	▲8.4
サ ー ビ ス 業	14.3	15.0	▲0.8	24.1	▲0.8	3.8	1.5	▲6.0	0.8

概況：〈DI(Diffusion Index) とは…〉DI(%)=「良い」「増加」等企業割合-「悪い」「減少」等企業割合

DIとは、各設問の項目について、「増加」「好転」したとする企業の割合から、「減少」「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値です。したがってDIがプラスを示している場合は、全体として「増加」「好転」とする企業が多く、景気(またはそれぞの要素)が上向きの傾向にあることを示します。逆にマイナスを示している場合は、景気が低迷の傾向にあることを示します。

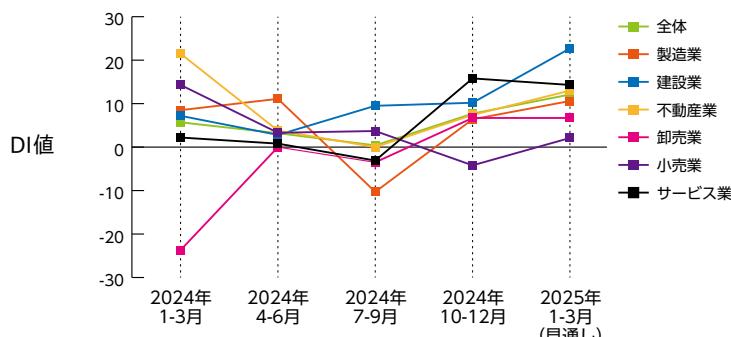
第90回調査実施概要

1.調査時期：2024年12月23日～2025年1月17日 2.対象期間：2024年10月～2024年12月期、および2025年1月～2025年3月期見通し 3.調査対象：支部会員中小企業（約3,565社）①製造業・建設業・運輸業・その他の業種（②～④を除く）…資本金3億円以下、または従業員300人以下 ②卸売業…資本金1億円以下、または従業員100人以下 ③小売業…資本金5千万円以下、または従業員50人以下 ④サービス業…資本金5千万円以下、または従業員100人以下 4.調査方法：調査票郵送～郵送・FAX・インターネットにて回収。区内金融機関に協力依頼。 5.回収状況：合計462社（回収率=13.0%）製造業…47社・不動産業…54社・小売業（飲食業含む）…95社・建設業…88社・卸売業…45社・サービス業…133社 ※数値については小数点第2位を四捨五入しており、計算値が一致しない場合がある。

お問合せ 東京商工会議所世田谷支部 TEL：03-3413-1461

業種別の動向

今期の業種別DIは「小売業」▲4.2（前期比▲7.9）のみ悪化している。大きく改善したのは「サービス業」+15.8（同+18.9）、「製造業」+6.4（同+16.7）、「卸売業」+6.7（同+10.2）の3業種で10ポイント以上改善した。来期は「サービス業」+14.3（当期比▲1.5）のみ減少、それ以外の5業種は増加する見通し。なかでも「建設業」+22.7（当期比+12.5）は10ポイント以上増加する見通し。

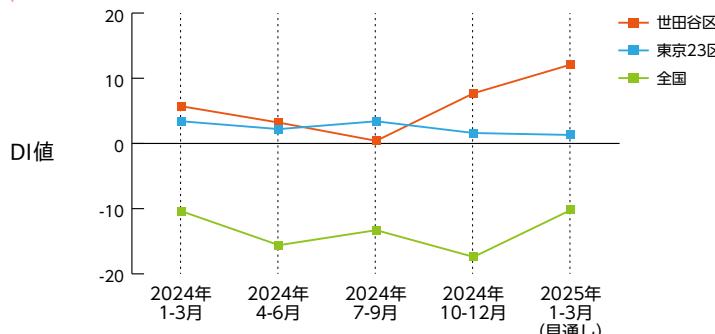


全 体	5.7	3.2	0.4	7.7	12.1
製 造 業	8.5	11.1	▲10.3	6.4	10.6
建 設 業	7.2	2.8	9.5	10.2	22.7
不 動 産 業	21.5	3.8	0.0	7.4	13.0
卸 売 業	▲23.7	0.0	▲3.5	6.7	6.7
小 売 業	14.3	3.3	3.7	▲4.2	2.1
サ ー ビ ス 業	2.2	0.8	▲3.1	15.8	14.3

2024年 1-3月 2024年 4-6月 2024年 7-9月 2024年 10-12月 2025年 1-3月(見通し)

東京都・全国との比較

今期は「世田谷区」（+7.7ポイント、前期比+7.3）のポイントは増加したが、「全国」は（▲17.4ポイント、同▲4.1）、「東京23区」（+1.6ポイント、同▲1.8）と減少した。来期見通しは「全国」（▲10.2ポイント、当期比+7.2）、「世田谷区」（+12.1ポイント、同+4.4）は増加、「東京23区」（+1.3ポイント、同▲0.3）は減少する見通し。



世 田 谷 区	5.7	3.2	0.4	7.7	12.1
東京23区	3.4	2.2	3.4	1.6	1.3
全 国	▲10.4	▲15.6	▲13.3	▲17.4	▲10.2

2024年 1-3月 2024年 4-6月 2024年 7-9月 2024年 10-12月 2025年 1-3月(見通し)

※データ参照（データ：業況判断DI前期比）
東京23区＝「東商けいきょう：業況判断DI」（東京商工会議所）
全 国＝「中小企業景況調査 業況判断DI（前期比季節調整値）」
(独立行政法人中小企業基盤整備機構)

経営上の問題点

1位「仕入単価、下請単価の上昇」43.3%（前期比▲1.3ポイント）、2位「人件費の増加」37.0%（同+3.5ポイント）、3位「人件費以外の経費の増加」32.0%（同+4.1ポイント）、4位「従業員の確保難」27.3%（同+3.2ポイント）と上位4位までは前回順位と同じ。5位「販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難」13.9%（同+0.3ポイント）は前回順位6位から、6位「需要の停滞」13.2%（同+3.4ポイント）は前回順位7位から、それぞれ1位ずつ上昇。7位「購買ニーズの変化への対応」13.0%（同▲1.5ポイント）は前回順位5位から下降した。8位「新規参入者の進出や同業者の増加」11.3%（同+3.7ポイント）は前回順位9位から上昇。9位「金利負担の増加」9.1%（同▲0.1ポイント）は前回8位から、10位「店舗・倉庫の狭隘・老朽化」5.8%（同▲1.8ポイント）は前回順位9位からそれぞれ下降した。

順位	項 目	回答数	回答率	前回順位	順位	項 目	回答数	回答率	前回順位
1	仕入単価、下請単価の上昇	200	43.3%	— 1	11	生産設備の不足・老朽化	26	5.6%	— 11
2	人件費の増加	171	37.0%	— 2	12	大企業（大型店）進出による競争激化	25	5.4%	— 12
3	人件費以外の経費の増加	148	32.0%	— 3	13	事業資金の借入難	21	4.5%	— 13
4	従業員の確保難	126	27.3%	— 4	14	取引条件の悪化	16	3.5%	— 14
5	販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難	64	13.9%	↑ 6	15	在庫の過剰	13	2.8%	↑ 16
6	需要の停滞	61	13.2%	↑ 7	16	購買力の他地域への流出	11	2.4%	↑ 18
7	購買ニーズの変化への対応	60	13.0%	↓ 5	17	在庫の不足	10	2.2%	— 17
8	新規参入者の進出や同業者の増加	52	11.3%	↑ 9	17	代金回収の悪化	10	2.2%	↓ 15
9	金利負担の増加	42	9.1%	↓ 8	19	生産設備の過剰	0	0.0%	— 19
10	店舗・倉庫の狭隘・老朽化	27	5.8%	↓ 9					

※複数回答（3つまで選択）のため、回答率の合計は100%を超える。